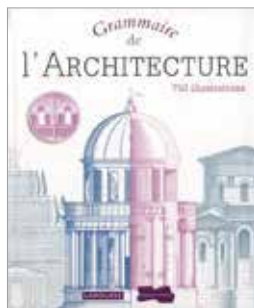
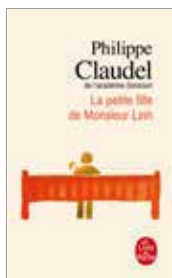
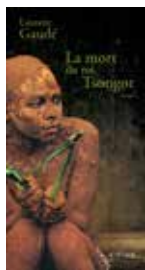


Les mangas japonais sont tellement populaires que les bibliothèques publiques ont créé des sections dédiées.

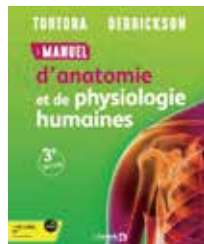
公立の図書館に専門コーナーが設置されるほど、日本の漫画は圧倒的な人気を誇ります。

世界の 本棚 フランス編

若者の
読書事情
レポート



text : 大島泉



フランスの司書&書店員おすすめ本。右上から順に「Le Monde sans fin」、
「Ne tirez pas sur l'oiseau moqueur」、
「SPY × FAMILY 9」、
「Chanel défilés」、
「TOMIE」、
「Grammaire de l' Architecture」、
「Manuel d'Anatomie et de Physiologie Humaines」、
「La Petite Fille de Monsieur Linh」、
「Le Livre des Martyrs 2 Les Portes de la Maison des Morts」、
「La Mort du roi Tsongor」、
「Au Revoir La -Haut」



新成人に カルチャーパスを贈呈

18歳は、フランスでは1974年以来、成人の年齢です。誰にとっても18歳が大きな節目になるのは、高校卒業資格のバカロレアを取得し、さまざまな高等教育機関に進学していくのがこの年齢だからです。

マクロン政権がコロナ渦中の2021年春に導入した「パス・キュルチユール」つまり「カルチャーパス」は、まさに、その18歳の新成人を対象とするものです。一人300ユーロ（約45000円）/2022年11月現在、相当の商品券を、政府が新成人全員にプレゼントするというアプリ形式のパスは、2年間有効。「カルチャー」の名が付く通り、書籍購入、観劇や映画のチケット、画材や楽器などの購入やアート関連のレッスン代などに使えるものです。スタートして1年経った2022年夏の調査によると、その用途は、半額以上が書籍の購入に使われ、特に、日本の漫画の売り上げに大いに貢献したということです。



1. 18歳の新成人全員に贈呈されるアプリ形式のパス「カルチャーパス」。
2. バリ郊外セルジー市にあるケスラー高校の図書館。
3. 図書館には漫画コーナーも設置されている。写真は同校図書館司書を務めるカトリーヌ・パス先生。

図書室でも漫画とBDは一番人気！

フランスは今や、日本以外で最も漫画が読まれている国ですが、「カルチャーパス」は、フランス人の若者の読書にどのような影響を与えているのでしょうか。まずは、パリ郊外で、公立高校の図書館司書教諭を務める、カトリヌ・ベスさんに聞いてみました。

「フランスには元々、BD（バンド・デシネ）と呼ばれるフレンチ・コミック本の伝統があります。私が司書になった30年前の学校の図書室には、文学書や人文書ばかりで、コミックはありませんでした。一方、日本の漫画に関しては、当時すでに家でアニメを見ている生徒はいたとは思いますが、爆発的な人気は15年くらい前ででしょうか。『ドラゴンボール』、『ワンピース』、『ナルト』などから、一気にフランスの若者が漫画を読むようになったのを受け、学校や公立の図書館でも10年くらい前からは漫画コーナーを設けるようになりました。並行して、BDの世界でも、娯乐的なだけではなく、社会的なテーマを扱ったものが増えたのを受けて、今では図書室の中でも、漫画とBDのコーナーは1番の人気です。」

カルチャーパスは高校3年に在学中の生徒が受け取りますが、パスを使って漫画を買ったという生徒の話はよく聞きます。司書として薦めたいのは、手元に置いて何度も読み返したくなるような本ですね。漫画以外にも、環境問題や歴史のトピックを美しい絵と読みやすいストーリーでまとめた、新しいタイプのBDや、文学作品、自分の進路に関係する専門書を購入するために、うまく活用してほしいです」



1. 1935年に建てられた、煉瓦造りの美しい外観が特徴の大型書店「エロル」。学生街カルチエラタンのサンジェルマン通りに堂々とそびえ立つ。

2-3. ここ数年で売り場面積が広がったのが、漫画とBD（フランスの伝統的コミック）のコーナー。

4. 若者向けの売り場責任者を務めるクリステル・ケヴァルさん。

手元に残しておきたい本を カルチャーパスで購入

書店では、カルチャーパスはどのように使われているのでしょうか。パリ大学ソルボンヌ校や名門高校、エリート養成校であるグランゼコール準備学級のトップ校が集まる学生街・カルチエラタンの大型書店「エロル」で聞いてみました。

「学生街ということもあり、まず、パスの300ユーロを有効に使って、進路に合わせた参考図書を購入するケースが多いです。医学系学生なら解剖学の、建築学の学生なら建築史の大型本を、という具合に、図書館で借りるよりも自分で持っておきたい、高価な書籍の購入に充てるのです。文学系の学生が、文庫版の小説を両手いっぱい買って行ったこともあります」と店長のエマニユエル・コンスタンタン氏。小説や漫画の売り場担当のクリステル・ケヴァルさんが続けます。

「もう一つの使い道は、普段から買いたくても我慢していた本を、この際揃えるケースです。特に、好きな漫画の全巻買いや、漫画以外ではファッションの写真集な



どがそうです。フランスでも大人気の『ワンピース』の場合、300ユーロでは全巻は買えません。」「エロル」でも、漫画売り場は入り口近くにあり、年々面積を広げています。「固定ファンがいるベストセラーもの以外の、お薦めの作品には書店員のメモをつけて平積みにするなど、作品と読者の出会いのきっかけ作りを楽しんでいます」とケヴァルさん。

将来の糧となる書籍から、現代のエンターテインメントを代表する漫画まで、カルチャーパスがフランスの新成人にさまざまな読書を楽しむ機会を与えているのは確かなようです。カルチャーパスは好評につき、今年は15歳から17歳までにも少額ながら対象が広がりました。漫画の売上に、さらに貢献することでしょう。